令和７年度 事業報告書

BPAJ
Bicycling
Popularization
Association of Japan

一般財団法人
日本自転車普及協会

【日本自転車普及協会の使命】

自転車の普及を通じて、社会に健康、安心、感動を提供します。

【イベント、教育、情報を軸に日本に新たな自転車文化を創造します】

ひとりでも多くの人たちに「自転車に出会えてよかった」を提供できる協会を目指します。

【「三つのそうかい（爽快・走快・添う会）」を軸に、事業を展開します】

爽　快 … 健康、感動、楽しさ（イベント事業）

走　快 … 安心安全、乗車技術、走行環境（教育事業）

添う会 … 伝統文化、安全、法律（情報提供事業）

【行動指針】

自転車の可能性や問題を日々探求し、自転車に関わることで心身ともに健康となり、模範的な自転車ライフを自ら体現していきます。

Ⅰ．はじめに

自転車は今日、近距離交通手段としてその経済性・利便性・効率性などが一段と評価され、日常生活に密着した乗り物として利用されています。また、自転車は健康的なスポーツ・レジャー・レクリエーションなどの用具として一層幅広い活用の道が拓けています。

現在、地球温暖化防止のために、二酸化炭素の地球規模での削減施策が世界的な緊急課題となっています。そこで、排気ガスを出さず、省エネルギーで無公害の“環境に優しい乗り物ー自転車”が、地球環境の浄化促進に一層重要な役割を担っていくことと期待されています。

本会は、自転車利用者のルール遵守・マナー向上の啓発・自転車駐車場の建設など、乗用環境の整備を始めとして、自転車の総合情報施設としての展示や調査収集活動を目的とした『自転車文化センター』の運営、さらには、自転車競技（『ツアー・オブ・ジャパン』開催等）及び関連機材の普及促進などを積極的に推進してきました。

今後ますます社会的に重要度を増していく自転車の安全利用の促進という使命を果たすため、本会は自転車を取り巻くさまざまな新しい時代の要請に応えるべく、未来へ向かって最大の努力を続け、各事業に邁進していきます。

Ⅱ．事業項目

＜爽快（イベント）＞

１．ツアー・オブ・ジャパン事業（P.3）　※ JKA公益補助事業

２．自転車月間推進事業（P.7）　※ JKA公益補助事業

３．サイクルツーリズム推進事業（P.9）

４．自転車に関する展示事業（P.9）　※ JKA公益補助事業

＜走快（教育）＞

５．自転車教室事業（P.13）

６．バイコロジー推進事業（P.14）

７．ポタリング事業（P.14）

８．自転車セミナー事業（P.15）

＜添う会（情報）＞

９．自転車文化センターによる情報提供事業（P.16）

10．自転車走行環境調査事業（P.17）

11．自転車交通安全教育調査研究事業（P.17）※ JKA機械振興補助事業

12．自転車ＡＤＲ事業（P.17）

＜その他＞

13．自転車関連機器の普及等事業（P.18）

14．財団運営等に関する事業（P.18）

※ ＜備考＞ 下記の事業は、(公財)JKA競輪補助事業の補助金を受けて実施しております。

●自転車ロードレース『ツアー・オブ・ジャパン』事業：

【公益】自転車競技の普及促進及び競技力向上に資する事業

●自転車月間推進事業／自転車に関する展示事業：

【公益】自転車安全利用等、自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する事業

●自転車交通安全教育調査研究事業：

【機械】自転車交通安全教育情報サイト・アプリ開発準備調査研究事業

Ⅲ. 実施内容

＜爽快（イベント）＞

１．ツアー・オブ・ジャパン事業

（１）ツアー・オブ・ジャパン開催に関する事業

（２）ツアー・オブ・ジャパン東京ステージ開催及び広報に関する事業

5月「自転車月間」の主要行事として、我が国における自転車競技の普及発展に資するため、UCI(国際自転車競技連合)公認の日本唯一の都府県をまたぐステージレース「ツアー・オブ・ジャパン2025」(以下「TOJ」)自転車ロードレースを、堺・京都・いなべ・美濃・信州飯田・富士山・相模原・東京の全8ステージ体制で、令和7年5月18日～5月25日に開催しました。

【報告書】https://www.mavisports.com/toj2025report/index.html#page=1

TOJは、令和5年大会より世界の自転車ロードレースで活躍できる次世代の選手発掘・育成・強化を目的としたプロジェクト「ロード・トゥ・ラヴニール(ROAD TO L'AVENIR、以下「RTA」)」の主旨に賛同し、提携をスタートしました。

これを受け、TOJを通じて自転車競技の魅力を伝え、日本各地の若い才能を発掘し、世界に通用する人材育成に寄与するべく、若手選手が所属するクラブチームや大学チームの出場を可能にするため、令和6年大会からUCIレースクラスを2.1から2.2への変更を行いました。

昨年に続き8日間8ステージ（堺･京都･いなべ･美濃･信州飯田･富士山･相模原･東京）のフルスペック、海外7チーム・国内9チーム計16チームを招聘して開催。出場チームは、2024シーズンのUCIアジア上位3チームであるトレンガヌ サイクリングチーム、ルージャイ インシュアランス、TOJ2024のディフェンディング・チャンピオンを擁するJCL TEAM UKYO、有望な若手選手で構成された日本ナショナルチーム、フランス籍クラブチームのチームブッファーズ・ジェスチョン ド パトリモワンヌが含まれており、国際色豊かな強豪ベテラン選手から若手選手といった多様な出場選手を迎えました。今年の大会でも、若手選手たちの活躍が非常に際立ち、TOJの「若手選手の登竜門」としての存在感を示すことができました。

出場チームには、UCIプロチームの新城幸也選手擁するソリューションテック ヴィーニファンティーニ、2024シーズンのUCIアジアランキング1～3位の3チーム、若手選手中心のワンティ・NIPPO・リユーズやフランス籍クラブチームのチームブッファーズ・ジェスチョン ド パトリモワンヌを含む、強豪ベテラン選手から若手有力選手といった幅広い出場選手が揃いました。

競技の結果としては、JCL TEAM UKYOが総合優勝4連覇となり、大会を通して安定した強さを発揮しました。また、京都ステージで岡篤志選手（宇都宮ブリッツェン）、美濃ステージで22歳の宇田川塁選手（愛三工業レーシングチーム）がステージ優勝を飾り、日本人選手が存在感を示しました。特に、宇田川選手はプロ初優勝であり、美濃ステージは所属チームのホームステージであるため、観客も大いに盛り上がったステージとなりました。

さらに、若手育成強化の一環として、「ロード・トゥ・ラヴニール」と連携し、各ステージでU23日本人選手の活躍を顕彰する新たな試みを実施しました。この賞は、次世代の日本人ロードレーサーにスポットライトを当て、若手選手のモチベーション向上とキャリア形成を後押しする意義があり、観客やメディアにとっても「若手が主役となる瞬間」が明確になることで、観戦の興味や応援の幅が広がり、自転車競技のファン層拡大にも寄与しました。

加えて、TOJ Kidsの取り組みとして、今年も各開催地の小学校や会場で自転車教室を開催し、多くの小学生や児童に参加いただきました。自転車の交通ルールやマナーについて講話を行った後、アトラクション形式で自転車に実際に乗り、楽しみながら自転車走行技術の向上体験をしてもらい、大変好評をいただきました。

①スケジュール・コース・距離： **総走行距離 ： 769.5km**

5月18日(日)	1st堺ステージ 13:30スタート 大仙公園周回コース（個人タイムトライアル）	2.6km
5月19日(月)	2nd JPF京都ステージ 9:45スタート 普賢寺ふれあいの駅→けいはんなプラザ周回コース	103.6km
5月20日(火)	3rdいなべステージ 9:30スタート 阿下喜駅前→下野尻交差点～いなべ市梅林公園周回コース	127.0km
5月21日(水)	4th美濃ステージ 9:15スタート 旧今井家住宅前→横越→美濃和紙の里会館前周回コース	137.3km
5月22日(木)	5th綿半 信州飯田ステージ 10:00スタート 下久堅小学校グラウンド前→下久堅周回コース →下久堅小学校グラウンド	120.9km
5月23日(金)	6th富士山ステージ 10:30スタート 富士スピードウェイ西ゲート→東京五輪タイムトライアルコース →小山町須走支所→ふじあざみライン→富士山須走口五合目	66.6km
5月24日(土)	7th AMANO相模原ステージ 8:50スタート 橋本公園→旧小倉橋→串川橋→鳥居原ふれあいの館前周回コース	107.5 km
5月25日(日)	8th SPEEDチャンネル東京ステージ 11:00スタート 東京都:品川区大井埠頭周回コース	104.0km

②出場チーム：全16チーム(海外7チーム／国内9チーム)

【UCIプロチーム】

・SOLUTION TECH VINI FANTINI (ITA)

【UCIコンチネンタルチーム】

・JCL TEAM UKYO (JPN)
・TERENGGANU CYCLING TEAM (MAS)
・ROOJAI INSURANCE (THA)
・WANTY-NIPPO-RE UZ (BEL)
・キナンレーシングチーム (JPN)
・マトリックス パワータグ (JPN)
・CCACHE X BODYWRAP (AUS)
・ヴィクトワール広島 (JPN)
・宇都宮ブリッツェン (JPN)
・シマノレーシング (JPN)
・VC福岡 (JPN)
・愛三工業レーシングチーム (JPN)
・REMBE｜RAD-NET (GER)

【ナショナルチーム】

・日本ナショナルチーム (JPN)

【クラブチーム】

・TEAM BUFFAZ GESTION DE PATRIMOINE (FRA)

③成績：

■総合成績

各賞	対象者	国籍	所属チーム
個人総合時間賞	アレッサンドロ・ファンチェル	イタリア	JCL TEAM UKYO
個人総合ﾎﾟｲﾝﾄ賞	岡 篤志	日本	宇都宮ブリッツェン
個人総合山岳賞	ニコロ・ガリッボ	イタリア	JCL TEAM UKYO
新人賞	マクサンス・プラス	ベルギー	WANTY-NIPPO-RE UZ
団体総合時間賞	JCL TEAM UKYO	日本	

■ステージ優勝

ステージ	勝利選手	所属チーム
堺ステージ	ドゥシャン・ラヨビッチ	SOLUTION TECH VINI FANTINI
京都ステージ	岡 篤志	UTSUNOMIYA BLITZEN
いなべステージ	アレッサンドロ・ファンチェル	JCL TEAM UKYO
美濃ステージ	宇田川 塁	AISAN RACING TEAM
信州飯田ステージ	シモーネ・ラッカーニ	JCL TEAM UKYO
富士山ステージ	ナホム・ゼライ・アラヤ	JCL TEAM UKYO
相模原ステージ	ベンジャミ・プラデス・レヴェルテル	VC FUKUOKA
東京ステージ	リアム・ウォルシュ	CCACHE X BODYWRAP

④観客数：

ステージ	観客数	天候
堺ステージ	45,800 人	曇り
京都ステージ	46,000 人	晴れ
いなべステージ	19,000 人	晴れ
美濃ステージ	22,000 人	晴れ
信州飯田ステージ	20,000 人	晴れ
富士山ステージ	12,000 人	曇り
相模原ステージ	24,000 人	曇り
東京ステージ	33,000 人	曇り
計	221,800 人	

⑤広報：　以下のとおり、パブリシティ活動を実施しました。

大会の告知と取材誘致及び自転車月間の趣旨の周知を図るため、プレスリリースを作成し、マスコミ各社に送付した結果、テレビ･ラジオ･新聞・雑誌・WEBにて多数取り上げられました(全433件)。

また大会告知のため、令和7年3月27日(木)14:00から「Tour of Japan 2025公式記者発表」を自転車総合ビル会議室からYouTubeにてライブ配信を実施しました。ゲストとして、海外の自転車ロードレースでもフォトグラファーや自転車レースライターとして活躍されており、今大会もツアー・オブ・ジャパン広報のメンバーとして帯同された田中苑子氏には会場（オフライン）にて、辻啓氏、小俣雄風太氏にオンラインにてご出演いただきました。

加えて大会前日の5月17日(土)に注目選手を4名（新城幸也選手／ソリューションテック ヴィーニファンティーニ、レイン・タラマエ選手／キナンレーシングチーム、金子宗平選手／日本ナショナルチーム、渡辺一気選手／日本ナショナルチーム）を迎え、YouTubeライブ配信にて前日記者会見を行いました。

大会告知ポスター及びチラシを作成し、4～5月にかけて全国の関係団体等に配布･掲出したほか、公式ガイドブックを作成・配布しました。公式ガイドブックに関しては今年からQRコードを読み取り自身のスマートフォンやその他電子機器でも閲覧することのできるデジタルガイドブックも新たに作成・公開しました。

また、大会公式ホームページを作成し情報の発信を行ったほか、Facebook、X（旧Twitter）やInstagram等のSNSを活用し情報発信を実施しました。Instagramの情報発信においては、有料広告によるレース告知を実施しました。

ツアー・オブ・ジャパン全ステージにて、ファンサービスの一環として、YouTube「BPAJ ch」にて全レース及び表彰式のライブ配信を行いました。

放送日	番組名	配信時間	ライブ配信視聴者数 (最大同時接続数)	累計視聴回数 (2025/6/30)
5/18　日	Tour ofJapan2025　堺ステージ	13:30～	1,931 人	22,000 回
5/19　月	〃　JPF 京都ステージ	9:45～	3,822 人	41,000 回
5/20　火	〃　いなべステージ	9:30～	3,872 人	35,000 回
5/21　水	〃　美濃ステージ	9:15～	4,422 人	39,000 回
5/22　木	〃　綿半 信州飯田ステージ	10:00～	4,080 人	39,000 回
5/23　金	〃　富士山ステージ	10:30～	4,000 人	5,833 回※
5/24　土	〃　AMANO 相模原ステージ	8:50～	4,785 人	49,000 回
5/25　日	〃　SPEED チャンネル東京ステージ	11:00～	1,196 人	1,677 回※

※補足：富士山ステージ及び東京ステージは配信トラブルのため、ライブ視聴者数を計測できませんでした。レース終了後に「動画」として再アップロードしているためライブ配信視聴者数の代わりにユニーク視聴者数(動画を視聴した「個別のユーザー」の数)を入力しています。また、累計視聴回数も配信トラブルのため、計測数が少なくなっています。

※また、ツアー・オブ・ジャパンに併せて次の大会を開催しました。

ア.第12回堺国際クリテリウム

日　　時：令和7年5月18日(日) 10:50～11:35
場　　所：大阪府堺市　大仙公園周回コース
走行距離：26.8km(2.7km×9周＋2.5km)
参 加 者：ツアー・オブ・ジャパン全出場選手96名

イ.第13回JBCF（全日本実業団自転車競技連盟）堺クリテリウム

日　　時：令和7年5月18日(日)　11:45～13:05
場　　所：大阪府堺市　大仙公園周回コース
走行距離：18.6km～26.7km(2.7km×6～9周＋2.4km)
参加資格：令和7年度登録完了者及びJBCFが特別に認めた者
参加者数：合計53名

ウ.第27回全日本学生選手権クリテリウム大会

日　　時：令和7年5月25日(日) 9:20～10:30
場　　所：東京都品川区 大井埠頭内特別周回コース

走行距離：1周6.5km×4～6周
参加資格：令和7年度登録完了者
参加者数：合計97名

各ステージにおいて次世代を担う地元小学生等が表彰式にアテンド登壇する『TOJキッズ』と、子供達を対象とした『自転車スクール』を開催。開催地域の活性化と自転車安全利用・自転車スポーツの普及啓発に、より一層努めました。

また大会期間中、各ステージにおいてご協賛各社によるPRブース出展で様々な普及啓発が行われると共に、ツール・ド・九州2025開催を目指す(一社)ツール・ド・九州事務局及び開催地各県庁ご担当者、THE ROAD RACE TOKYO TAMA2025開催を目指す東京都ご担当者、そして2026年アジア・アジアパラ競技大会組織委員会ご担当者(※愛知県内で開催予定)が、TOJ各ステージに視察に来られて現場で運営体制を見学された上、後日個別に対面・オンライン等で自転車ロードレース大会の運営に関するヒアリングを求められ、本会担当者より大会主催者としての運営ノウハウを可能な限り提供しました。

２．自転車月間推進事業

自転車を安全に利用するための環境整備や正しい乗り方の普及啓発を目的として制定された自転車月間の趣旨を広く啓発するため、ファミリー層を主な対象として、5月5日に自転車の日記念行事「サイクルドリームフェスタ2025」を、明治神宮外苑聖徳記念絵画館前で開催しました。

【報告書】http://www.bpaj.or.jp/file_upload/102112/_main/102112_02.pdf

会場内では、自転車活用推進本部・東京都・警視庁による自転車交通安全教室やブース出展、多数の自転車メーカー・ハンドメイドビルダー等による自転車体験試乗会などを展開し、楽しくて学びのあるイベントとなりました。来場者には試乗に際してヘルメットを着用してもらい、自転車活用推進本部・東京都・警視庁はじめ出展各社と連携して自転車の安全利用と有効活用を啓発しました。

サイクルドリームフェスタ2025

① 開催日時：令和7年5月5日(月・祝)10:00～16:00

② 開催場所：明治神宮外苑聖徳記念絵画館前通り及び神宮外苑サイクリング道路

③ 実施内容：

《ステージイベント》

・BMX パフォーマンスショー×2 回(午前・午後)【協力：(一社)全日本フリースタイル BMX 連盟】
・自転車メンテナンス講座【協力：なるしまフレンド】
・ピーポ君の自転車交通安全教室【協力：警視庁交通総務課】
・輪行実演ステージ【協力：アズマ産業㈱】
・畑中勇介氏と栗村修師匠？のやっぱり楽しくなきゃ！自転車も人生も～元気と勇気をもらえるトークショーVol.4～【協力：畑中勇介氏(ｷﾅﾝﾚｰｼﾝｸﾞﾁｰﾑｺｰﾁ)・栗村修(TOJ 組織委員会委員長)】
・“これって電動アシスト自転車？原付バイク？免許は必要？どこを走っていいの？”
【協力：警視庁交通総務課モビリティ戦略第一係】

《体験イベント》

・自転車体験試乗コーナー
＜協力：Pacific Cycles Japan／(同)5LINKS／絹自転車製作所／ヨネックス㈱／macchi／UCCO㈱／㈲今野製作所／マヴィックジャパン㈱／アサヒサイクル㈱／㈱サギサカ／

㈱ASK TRADING／プロショップタカムラ製作所／㈱ケイ・エイチ・エス・ジャパン／
㈱近藤機械製作所／ミズタニ自転車㈱／㈱ACTION SPORTS／メリダジャパン㈱／
平和技術研究所／㈱サイクルスポット／㈱ふたごじてんしゃ×オージーケー技研㈱／

・BMX・MTB 子ども乗り方教室　＜講師：井手川 直樹氏／三瓶 将廣氏＞
・子ども自転車試乗会　＜協力：㈱サイクルスポット＞
・発電自転車体験
・おもしろ自転車試乗会　＜協力：(一財) 日本サイクルスポーツセンター＞
・サイクリングフィットネス　＜協力：トキノカンパニー＞
・白バイ・パトカーと記念撮影　＜協力：警視庁四谷警察署＞
・自転車交通安全走行シミュレーター体験・VR 体験　＜協力：東京都都民安全総合対策本部＞
・俊敏性テスト(クイック・キャッチ)　＜協力：警視庁交通総務課＞
・俊敏性テスト(クイック・ステップ)　＜協力：自転車文化センター＞
・「自転車月間」、「バイコロジー」、「ツアー・オブ・ジャパン」PR コーナー

《ブース出展》
＜自転車活用推進本部／東京都都民安全総合対策本部／警視庁交通総務課／警視庁四谷警察署
／新宿区交通対策課／㈱和光ケミカル／㈱トキノカンパニー／
(一社) グッド・チャリズム宣言 プロジェクト／(一社) さいたまスポーツコミッション＞
＜自転車月間・バイコロジー＞
・パネル展示【自転車月間とは・バイコロジーってなに？・自転車はルールを守って楽しく乗りましょう・自転車は健康にどのようにいいのか？・自転車は愛すべき乗り物です／計 5 点】

④ 入場者数：　2,000 人

⑤ 特記事項：
今回は電動アシスト自転車の乗り比べを行っていただけるよう、出展社の㈱サイクルスポット等の協力を得て各メーカー・車種を豊富に用意し、来場者に体験していただきました。特に人気だったのはスポーツタイプの車種で、一見アシスト自転車には見えないところもその理由の一つだったのではないでしょうか。多数の車種・メーカーのアシスト自転車を試乗して乗り比べられる機会はなかなかないと思われ、来場者の皆様にご好評をいただきました。

⑥ 広報：
本イベント専用ホームページを立ち上げると共に、チラシ(2,500 部)を作成、4～5 月にかけて、自転車関係団体や出展社メーカーなどに送付し、一般の方々への配布を依頼しました。
また、会場近隣にある小学校や新宿区の協力を得て、チラシ・ポスターを同区の保育所（こども園）、幼稚園、公民館などに配布・配置させていただき直接的な広報も行いました。SNS での広報が主流となる昨今、自転車愛好者も検索頻度が高いとされる自転車専門の Web 媒体であるシクロワイヤードにバナー等を掲載し、告知広告を行うと共に、編集タイアップ記事を配信しました。
加えて本会ホームページ上での開催告知及び報道各社へプレスリリース配信等のPRを行った他、会場最寄り駅の一つである東京メトロ外苑前駅構内においてポスターの掲出を行い、一般来場者の誘致につなげました。

なお、上記の自転車月間事業を円滑に推進するため、構成30団体と連携して、自転車月間推進協議会総会を下記のとおり開催いたしました。

ア．令和7年度第1回自転車月間推進協議会総会
日時：令和7年7月25日(金)
内容：令和7年度自転車月間事業報告、決算報告
イ．令和7年度第2回自転車月間推進協議会総会
日時：令和8年3月17日(火)
内容：令和8年度自転車月間事業の実施計画、予算報告

３．サイクルツーリズム推進事業

自転車活用推進法第8条『重点的施策』第14項に掲げられている「自転車を活用して国内外からの観光旅客の促進、観光地の魅力の増進その他地域の活性化に資するものに対する支援」にあるとおり、近年国土交通省・観光庁を始め、地方自治体や「道の駅」等を運営する第三セクターなどの公的機関が、積極的にサイクルツーリズムや自転車ロードレースの開催を通じた地域活性化に力を入れておりますが、TOJの項目で申しましたとおり、自転車ロードレースを開催する地方自治体等からの要請を受けて、自転車による地域活性化に資するため、大会運営のノウハウ提供を行いました。

なお、本会会長自ら自転車に乗って、サイクルツーリズムの素晴らしさや楽しさと、自転車安全利用を啓発するため､令和8年3月末までに全国47都道府県を順番に訪問するべく『全国自転車交通安全行脚』を実施し、令和8年3月1日から大阪～東京までの東海道五十七次の総仕上げに入り、最終的に3月31日に東京都 小池百合子都知事・国家公安委員会 赤間二郎委員長・国土交通省 金子恭之大臣を順次表敬訪問いたしまして、自転車の安全利用と有効活用の推進について意見交換を行い、令和8年4月1日からの「自転車青切符制度」本格導入を前にして全国行脚の締め括りとさせていただきました。

【本会ホームページ】http://www.bpaj.or.jp/?tid=102002

４．自転車に関する展示事業

環境にやさしいなど自転車の持つ特性を広く一般の方へ周知することを目的とし、東日本で唯一の自転車専門展示施設である自転車文化センターの特性を生かし、自転車に関する情報発信を行いました。来館者に対し自転車の多様な魅力を伝えるとともに、これまで自転車に関心の薄かった層にも興味を喚起する機会を提供しました。また、自転車文化センター外での出張展示を実施することで、より多くの方に自転車の魅力を伝えるとともに、認知向上および普及促進につなげることができました。

（1）自転車文化センター外部展示

① 常設展示

年間約50万人が来館する科学技術館（千代田区北の丸公園内）2階において、歴史的自転車の実物等を展示する「自転車広場」を出展するとともに、年間約10万人が来場する自転車のテーマパークである「日本サイクルスポーツセンター」および自転車競技場である「伊豆ベロドローム」(静岡県伊豆市）において、歴史的自転車および当センターの施設紹介展示を行い、多数の来場者に対して自転車の歴史と利用促進および普及啓発する常設展示を行いました。

これらの施設に来場する社会科見学の小・中学生や家族連れ、自転車競技関係者に対し、展示を通じて自転車の歴史や文化の醸成と理解促進を図りました。さらに、科学技術館においては夏休み科学教室と連動した展示解説を実施し、子どもたちの興味関心の喚起につなげました。

ア．科学技術館　自転車広場
展示場所：科学技術館２階Ｆ室(東京都千代田区北の丸公園２－1)
期　　間：令和７年４月１日～令和８年３月 31 日

イ．日本サイクルスポーツセンター（静岡県伊豆市）

展示場所：日本サイクルスポーツセンターレンタサイクル棟（静岡県伊豆市大野 1826 番地）

期　　間：令和７年４月１日～令和８年３月 31 日

② 出張展示

自転車文化センターの所在地である目黒駅周辺以外の地域において、来街者の多いエリアを選定し、レンタルスペースを活用した出張展示を実施しました。本展示では、当センター所蔵自転車の実物展示に加え、パネル展示およびパンフレット配布を行い、自転車の歴史や文化に関する情報発信を行いました。本年度は開催地域の特性や来場者層を踏まえ、新中野および銀座の2会場において、全く内容の異なる展示構成を採用し、それぞれの客層に適した訴求を行いました。また、SNSやインフルエンサーを活用した広報を展開しました。その結果、当該地域以外からの来場も見られるなど認知拡大につながったほか、これまで十分に公開機会のなかった所蔵資料（ポスター等）の展示により、来場者の関心喚起および理解促進に寄与しました。

ア．第１回 出張展示 新中野

名　　称：Bicycle Gallery in Shin-nakano

場　　所：新中野レンタルスペース　（東京都中野区中央3－34－3）

日　　時：令和7年10月8日（水）～10月14日（火）

10 月 8 日（水）13 時～19 時（設営後一般公開）

10 月 9 日（木）～13 日（月）11 時～19 時

10 月 14 日（火）11 時～13 時

入場者数：570 名

【報告書】https://cycle-info.bpaj.or.jp/file_upload/100678/_main/100678_01.pdf

イ．第２回 出張展示 銀座

名　　称：Bicycle Gallery in Ginza

場　　所：銀座ギャラリー アートハウス　（東京都中央区銀座 4－4－5）

日　　時：令和７年 11 月 24 日（月）～11 月 30 日（日）

11 月 24 日（月）13 時～19 時（設営後一般公開）

11 月 25 日（火）～29 日（土）11 時～19 時

11 月 30 日（日）11 時～13 時

入場者数：349 名

【報告書】https://cycle-info.bpaj.or.jp/file_upload/100685/_main/100685_01.pdf

（２）自転車文化センター時事情報展示

自転車に関する適時適切な話題及びニュースについて、自転車文化センター館内に設置した掲示板を活用し、随時、時事情報の公開を実施しました。最新情報を迅速に周知することにより、来館者に対する情報取得の機会を提供し、来館の付加価値向上を図りました。

また、時事情報に応じた展示内容の更新を行うとともに、関連法規や安全利用に関する内容についても関心を喚起できるよう、解説内容や展示手法に工夫を凝らし、来館促進並びに自転車の安全利用啓発活動を展開しました。

さらに、自転車の歴史に関する映像を制作し上映を行うことで、来館者の理解促進及び関心喚起を図り、展示内容の訴求力向上に寄与しました。映像を活用した展示により、自転車に関する知識普及及び安全利用意識の向上にも効果があったものと考えられます。

①ライブラリー常設展示（補助事業外）

自転車文化センターライブラリーにて、年間常設展示を行いました。

ア．自転車の歴史展

場　所：自転車文化センターライブラリー・ショーウィンドウ

期　間：令和7年4月～令和8年3月　1年を通して展示

内　容：1817年（文化14年）にドイツのカール・フォン・ドライス男爵が発明したドライジーネは、二輪自転車の起源とされています。本展示では、自転車誕生から200年以上にわたる進化の過程について理解を深めてもらうことを目的に、自転車の起源から現在に至るまでの変遷を分かりやすく整理した年表を作成し、展示しました。

期間中のライブラリー来館者数：1,640名

②時事情報展示

ア．第1回　自転車のふしぎ展

場　所：自転車文化センターギャラリー

期　間：令和7年7月2日(水)～9月7日(日)

内　容：自転車の構造や仕組みについて紹介しました。自転車はどのように製造されているのか、またその構造の理由について、分かりやすい展示および実験装置を用いて解説し、「自転車に関する不思議」の理解促進を図りました。

期間中の来館者数：373名

イ．第2回　街を彩る自転車ロードレースの魅力展

場　所：自転車文化センターギャラリー

期　間：令和7年9月10日(水)～12月14日(日)

内　容：一般道路を舞台に開催されるロードレースの魅力に着目し、国内で開催されているUCI公認レースを中心に紹介しました。観戦方法や楽しみ方を解説し、ロードレースに対する理解促進および関心喚起を図りました。

期間中の来館者数：400名

ウ．第3回　旅の自転車展～乗り手のための自転車～

場　所：自転車文化センターギャラリー

期　間：令和7年12月17日(水)～令和8年2月15日(日)

内　容：「旅」と「ハンドメイド自転車」をテーマに自転車のもつ多様な魅力やものづくりの精神、自転車による新しいライフスタイルの広がりを乗り手のために考えた展示をしました。当センター所蔵の世界一周を達成した歴史的自転車をはじめ、ツーリングバイクやグラベルバイク等を展示し、スポーツ用途にとどまらない自転車の楽しみ方や新たなライフスタイルの提案を行いました。

期間中の来館者数：278名

エ．第4回　知って安全、クイズで学ぼう自転車青切符制度

場　所：自転車文化センターギャラリー

期　間：令和8年2月18日(水)～3月29日(日)

内　容：令和8年4月1日から施行される自転車交通反則通告制度について、制度の概要や必要性、対象となる違反行為をクイズ形式で分かりやすく紹介しました。あわせて自転車安全シミュレーターの体験コーナーを設置し、交通ルールの理解促進と安全意識の向上を図りました。

期間中の来館者数：201名

【報告書】時事情報展示第1～4回
https://cycle-info.bpaj.or.jp/file_upload/100701/_main/100701_01.pdf

オ. 自転車の歴史映像制作

内　容: 時事情報展示、並びに科学技術館自転車広場における活用を目的として自転車の歴史映像を制作しました。本映像の制作は、来館者の理解促進及び関心喚起につながり、展示内容の訴求力向上に寄与しました。また、幅広い世代に対する自転車文化の普及啓発及び安全利用意識の向上にもつながるものと考えております。

（3）ハンドメイドバイシクル展

乗り手の体格・用途に合わせて自転車をオーダーメイドで製作する高い技術を持ったハンドメイドビルダーが製作した自転車や独創的な各種パーツ、また高齢者・障がい者向けの特殊な自転車を一堂に会して紹介する「2026 ハンドメイドバイシクル展」を開催しました。

本展では、ハンドメイド自転車の技術や文化の紹介に加え、トークショーやワークショップ、試乗会等の体験型企画を実施し、来場者がハンドメイド自転車の魅力やものづくりの背景に触れることができる機会を提供しました。

また、主催者展示コーナーでは「旅とハンドメイドバイシクル」をテーマに、自転車が移動手段としてだけでなく旅の道具として果たしてきた役割や楽しみ方、その可能性について、実車やパネル展示を通して紹介しました。

名　　称：2026 ハンドメイドバイシクル展
期　　間：令和 8 年 1 月 24 日（土）～1 月 25 日（日）
　　1 月 24 日　10：00～16：50 / 1 月 25 日　9：30～16：30
場　　所：科学技術館 1 階 1～5 号催物場（東京都千代田区北の丸公園 2-1）
主　　催：一般財団法人日本自転車普及協会 / 自転車文化センター
後　　援：自転車活用推進議員連盟 / 自転車活用推進本部
来場者数：合計 3,185 名（1 月 24 日（土）1,571 名、25 日（日）1,614 名）

【ハンドメイドバイシクル展スペシャルトークショー】
1 月 24 日（土）
・自転車にもっと自由を！「Japan Bike Technique」ゲスト：松本敦氏（JBT）・市川均氏（JBT）
・「京都の感性で追求する理想の自転車作り」ゲスト：片岡聖登氏・片岡有紀氏（VIGORE）
・「There's Power in Numbers」ゲスト：Keith Noronha 氏・Jim McCafferty 氏（Reynolds Technology）

【コロンバスワークショップ ― パイプ磨きミニ体験 ―】
1 月 25 日（日）第 1 部 10：00～10：20 / 第 2 部 12：00～12：20 / 第 3 部 14：00～14：20
定員：各回 10 名　計 36 名参加　実施主体：日直商会

【ハンドメイドバイシクル展 プレミアム試乗会（事前申込制）】
1 月 25 日（日）1 回目 9：40～10：40 / 2 回目 11：20～12：20 / 3 回目 13：20～14：20
参加者：計 31 名　第 1 部 10 名、第 2 部 11 名、第 3 部 10 名

【主催者展示コーナー「旅とハンドメイドバイシクル」
自転車が旅の道具として果たしてきた役割や楽しみ方、旅の目的に応じたフレーム設計、積載方法、走行性能、耐久性、修理・改良のしやすさ等について、実車及びパネル展示により紹介し、来場者が自分にとっての旅の自転車について考える契機を提供しました。
展示協力：VIGORE、グランボア、東叡社
【報告書】https://cycle-info.bpaj.or.jp/file_upload/100698/_main/100698_01.pdf

＜走快（教育）＞

５．自転車教室事業

自転車文化センターでは、初心者向けの自転車の乗り方指導から自転車の楽しさを伝えるとともに、安全に安心して自転車を利用するためのルール・マナーを学ぶ機会として自転車安全教室を実施しています。本年度は、地方自治体、シルバー人材センター、自転車通勤を認めている民間企業・団体等からの依頼を受け、自転車シミュレーターや交通安全体験機器を活用し、対象者のニーズに応じた内容で自転車の安全な利用方法を学ぶ機会を提供しました。また、夏休み・春休み期間中には子ども向けの自転車乗り方教室を開催したほか、科学技術館において自転車科学教室を開催し、計29名の参加がありました。さらに本年度の新たな取組として夏休み期間中に「自転車分解組み立て教室」を実施したほか、さいたま新都心公園で開催された「さいたまサイクルフェスタ」においても科学教室を実施しました。加えて、科学技術館自転車広場において「夏休みこども相談&展示解説ツアー」を実施し、本会学芸員による自転車に関連する質問や課題解決の相談コーナーの設置および展示解説ツアーを2日間実施し、こども相談8件、展示解説ツアー25名の参加がありました。

（1）自転車安全教室

地方自治体やシルバー人材センター、自転車通勤を取り入れている民間企業等からの依頼を受け、小学生から高齢者まで幅広い年代を対象に自転車安全教室を実施しました。当センター学芸員および自転車安全教育指導員資格を有するスタッフが講師となり、パワーポイントによる座学講習に加え、自転車シミュレーターや反応速度測定機器を活用した体験型プログラムを組み合わせた出張形式の自転車安全教室を 12 件開催しました。

（2）自転車乗り方教室

幼児から小学校低学年を対象に、補助輪を使用せず自転車に乗るための方法を分かりやすく指導する「自転車乗り方教室」を夏休み・春休み期間中に開催しました。自転車の基礎的な操作技術の習得、ペダリング等正しい乗り方の理解を促す機会として、夏休み 7 名、春休み 6 名（いずれも定員満員）の参加がありました。

（3）自転車科学教室

小・中学生を対象に、自転車の素材・構造・仕組みを学ぶ「自転車科学教室」を実施しました。本年度は、科学技術館 4 階サイエンスホールＬにて自転車の素材・構造・自転車独自の仕組みを学習し、その後 2 階の自転車広場での実物展示を用いた解説を組み合わせ、2 回開催で計 29 名（午前 15 名、午後 14 名）が参加しました。また、さいたま新都心公園で開催された「さいたまサイクルフェスタ」においても同様の科学教室を実施し、外部イベントにおける普及啓発活動の充実を図りました。

（4）自転車の分解組み立て教室

夏休み期間中に、学校の自由研究にも活用できるよう簡易テキストを配布し、「自転車の分解組み立て教室」を新規企画として開催しました。本教室では、自転車を実際に分解しながら各部品の名称や構造、役割について解説を行い、その後組み立てまでの一連の工程を体験することで、自転車の仕組みや安全に使用するための理解を深める内容としました。参加者は少人数ではあったものの、実際の作業を通じて理解を深める実践的な学びの機会となり、参加者からは自転車の構造に対する関心が高まったとの感想がありました。

６．バイコロジー推進事業

「バイコロジー＝バイク(自転車)＋エコロジー」をテーマに、地球環境にやさしいなど数々の利点を持つ自転車の活用を一層進めるバイコロジー運動推進事業は、『自転車活用推進法』第8条における自転車活用の推進に関する重点施策として掲げられている15項目のうちの複数に合致しており、より一層の自転車活用推進を目指した事業を各地方組織と連携して全国で展開しました。

（1）バイコロジー地方組織との連携事業

全国25バイコロジー地方組織と連携を取り、「全国統一自転車利用促進キャンペーン」（「春の全国交通安全運動」「5月自転車月間」「秋の全国交通安全運動」の年3回)、「自転車による福祉・健康増進事業」を行いました。キャンペーンに際しては、自転車安全啓発品を作成し、各バイコロジー組織のメンバーが駅前や街頭などにおいて、広く一般市民に対して啓発品を直接手渡ししながら、自転車安全利用五則や全年齢の自転車利用者でヘルメットの着用が努力義務化されたことも併せて、自転車の安全利用を呼び掛けました。

（2）バイコロジー地域リーダー養成セミナー

自転車を安心して乗ることが出来る環境づくりや、今後の自転車のあり方等について情報交換するための下記のセミナーを開催しました。

日　　時：令和7年11月26日（水）13：30～15：00
講　　師：鈴木 駿介氏（警察庁交通局交通企画課）
テ ー マ：自転車の安全利用に向けた施策について～自転車への青切符の導入を中心に～
参加者数：10組織10名/一般・関係団体52名（リアル15名/オンライン37名）合計62名
内　　容：講師の警察庁交通局鈴木駿介課長補佐による講習で、国民の皆さまに自転車を安全・安心に利用していただくため、自転車の交通違反に対する指導取締り等の交通事故防止に資する諸施策の推進に取り組んでいる。セミナー内容としては、自転車を取り巻く交通事故情勢、令和6年道路交通法の一部を改正する法律の概要、「自転車ルールブック」の概要、自転車の交通安全教育の充実化に向けて、様々なデータを基にお伝えいただきました。

セミナー終了後には、地方におけるバイコロジー運動のリーダーを育成し、自転車市民権運動の活発化を図るため、地方組織の皆様と意見交換会を行いました。

また本事業を円滑に推進するため、構成団体の皆様とバイコロジーをすすめる会総会を開催しました。

バイコロジーをすすめる会総会
日時：令和8年3月17日(火)
議題：・令和8年度バイコロジー運動方針について
・令和8年度バイコロジー統一事業の概要について

７．ポタリング事業

自転車の安全で正しい乗り方の啓発及び自転車による散策・観光といった楽しみ方の普及を目的として、ポタリング事業を実施しました。本事業は、全国自転車交通安全行脚と連携した安全啓発の取組として位置付けて実施したものです。当日は、本会職員が公道を走行し、交通ルールの遵守、自転車安全利用五則の実践、ヘルメット着用の重要性等について、実走を通じた啓発及び自転車乗用環境調査を行い、また自転車は軽車両であり車両の一員であるという認識の浸透を図りました。令和8年4月1日から開

始された自転車交通反則通告制度（青切符制度）を踏まえ、自転車利用者の法令遵守意識及び安全意識の向上を図りました。

実 施 日：令和8年3月29日（日）
実施場所：神奈川県小田原市～葉山周辺　約50㎞
実施形態：本会職員による実走ポタリング形式
参 加 者：本会業務課職員
内　　容：公道走行を行い、交通ルール・マナーの遵守及び安全利用の啓発を行うとともに、自転車乗用環境調査を実施した。

８．自転車セミナー事業

新しい自転車利用の社会的認知を図るとともに、高付加価値自転車の普及等の啓発活動を実施するため、自転車利用による地球環境への負担軽減・健康促進・文化醸成・技術促進・交通事故対策・交通ルール遵守・走行環境整備など「自転車が果たす社会的な役割」を広く一般に啓発し、様々な問題を考える場として、有識者・著名人を講師としてお招きし、合計3回のセミナーを開催しました。

今年度は人数制限を設けず、セミナー終了後には講師の方を囲む懇親会も再開し、参加者同士の交流の機会を設けました。

また、お住まいが首都圏から離れている方や開催時間に間に合わない方にもご視聴いただくため、オンライン配信も継続して行いました。

① 第1回自転車セミナー

日　　時：令和8年1月20日(火) 18：30～20：00
講　　師：中村 天星 氏（サイクルツーリスト・ライター）
テ ー マ：「欧州サイクルツーリズムの魅力」
参加者数：17名(リアル：12名、オンライン：5名)
内　　容：講師の中村氏は、高校卒業後に自転車で270日をかけて日本一周を走破。その後、「周学の旅」と名付け、欧州のユーロヴェロを辿る旅を開始。2025年にフィンランド・ヘルシンキを出発し、フランスやスペインを自転車で周遊し、そこで出会った自転車文化や人々について、様々な体験や経験に基づき親しみやすく伸び伸びと魅力にあふれたご講演をいただきました。

② 第2回自転車セミナー

日　　時：令和8年2月19日（木）18：30～20：00
講　　師：小俣 雄風太 氏（自転車ジャーナリスト、編集者）
テ ー マ：「自転車レースはどう書かれてきたか～ロードレースを巡るナラティブを考える～」
参加者数：23名(リアル：15名、オンライン：8名)
内　　容：20世紀初頭に欧州で本格化した自転車ロードレースは、そもそも新聞社が発行部数を伸ばすための販促イベントとして創始されました。レースの様子は、文字で報道されることが前提であったスポーツイベントは、長い自転車ロードレースの歴史の中でどのように記述され、どのような流れがあったのかを実例からセミナー内で講師と参加者とで共に読み解き、現代はどのように書き言葉での表現が可能であるかを興味深く説明していただきました。

③ 第3回自転車セミナー

日　　時：令和8年3月17日（火）18：00～20：00

講　　師：堂城 賢 氏（自転車ティーチングプロ）

テ ー マ：楽に・安全に・速く～そして気持ちよく自転車に乗るためにはどうすれば良いのか～

参加者数：28名（リアル：20名、オンライン：8名）

内　　容：マウンテンバイクプロ選手としての経験と、空手家としての効果的な身体の使い方のポイントについて、独自の理論に基づき、重心の軸・荷重移動そして姿勢や手指や脚の使い方をセミナー参加者との実演を通じて判り易く解説しました。参加体験者がちょっとした身体の使い方のコツを押さえることで、自分の身体と力を無駄や無理なく活かして大幅に楽に走れる楽しさを伝えていただきました。

<u>＜添う会（情報）＞</u>

９．自転車文化センターによる情報提供事業

自転車に関する総合情報提供施設「自転車文化センター」を拠点に、地域を始め広く一般市民を対象に、自転車に関する正しい認識と理解を深め、自転車文化を醸成するための事業を行いました。

自転車に対する世間の関心は高く、各種自転車情報収集のニーズがあるほか、メディアからの問合せに関しても年々関心の高まりを感じるため、国内外の自転車関連資料及び情報の調査・収集を行い、収集した資料・情報は、データベースで管理し、展示やスタッフの対応を通して来館者に提供しました。また、自転車文化センターのホームページにおいて成果を広報しております。

（1）自転車に関する総合情報提供事業

国内外の自転車の実物・図書・映像ならびに関連資料及び情報の調査・収集を行い、収集した資料・情報は「自転車データベース」に登録して管理・保管し、来館者やマスコミ等に対して情報提供を行いました。

【令和7年4月～令和8年3月の新規登録資料 277点】

目黒・自転車総合ビルの自転車文化センターは、令和7年度は3,283人(1日平均12.4人)が来館されました。来館者に対しては、問合せ・図書等資料貸出に応対すると共に、電話・FAX・e-mailによる問合せや相談・質問65件に対して、ご依頼内容を解決するための相談対応や情報提供を行いました。

また、令和7年4月～令和8年3月までの自転車文化センターホームページのページビュー件数は、240,509件となりました。（＊平成10年の運用開始からの述べアクセス件数は3,932,992件となっております。）

さらに、資料貸出・取材協力・監修協力・出演依頼に対する協力等の対応を行いました。

【令和7年度…取材・出演依頼17件／監修・執筆依頼7件／貸出一覧8件 計32件】

10. 自転車走行環境調査事業

自転車が地球環境にやさしい乗り物であることから、意識の高い国民への自転車利用の促進、ひいては循環型社会の中で自転車を重要な交通手段として位置付ける機運の醸成を図るために、自転車の普及を促進する団体として、本会役職員による自転車走行（利用）環境の実地調査を進めました。

役職員自ら自宅から最寄り駅まで、あるいは自宅から職場まで自転車通勤を重ねており、また歩行者として歩道や街を行き交うことを通して、自転車の魅力や課題に実際に触れ、これからの社会で自転車の役割として何が求められているかを確認しております。

11. 自転車交通安全教育調査研究事業

警察庁では令和6年7月8日に第1回『自転車の交通安全教育の充実化に向けた官民連携協議会』を立ち上げ、令和8年春からの改正道路交通法施行による青切符制度導入に向け、「交通安全教育」「違反取締」「交通規制」の3項目を推進し自転車の交通事故の削減を目指し、本会も同協議会に参画しております。

＊警察庁主宰『自転車の交通安全教育の充実化に向けた官民連携協議会』公表資料

https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/council/index.html#bicycle-1

警察庁や参画団体と連携・役割分担をしながら、本会が主体となり、競輪機械振興補助事業（https://www.jka-cycle.jp）の補助を頂き、現在我が国において公的機関・民間団体の皆様やその他有志活動主体の皆様が実施している各種自転車交通安全教育講習会等の内容を、収集・実地調査・検証し、皆様の交通安全教育活動を補足することができるよう、さらに実効性があるカリキュラムを作ると共に、この普及を図るためのシステム・ツールを開発・確立することを目的とした調査研究を、令和6年年度から3ヶ年計画で開始。2年度目の本年度は、令和8年4月1日付で「自転車青切符制度」が正式に施行されることに先立ちまして、広く一般の方に自転車の交通ルールを知っていただくとともに、各世代別に効果的な自転車交通安全カリキュラムを取りまとめると共に、全国で自転車交通安全教室を展開されておられる公的・民間団体の皆様から趣旨にご賛同いただいた教室をご紹介する専門サイト『自転車ルール.jp』を、令和8年3月26日付で公開いたしました。

【自転車ルール.jp】https://jitensha-rule.jp/

【本会HPにおけるご案内】http://www.bpaj.or.jp/?tid=102176

また本調査研究総仕上げの最終年度・令和8年度に、自転車交通安全教育アプリを開発して令和9年3月末に公開・提供を行う予定ですが、そのアプリの基本設計方針・開発準備を調査2年度目の成果物として下記の通り報告書に取りまとめました。

【本会HPにおける報告書ご案内】http://www.bpaj.or.jp/?tid=102111

なお本会は、自転車活用推進本部主宰『自転車活用推進官民連携協議会』構成団体の一員でもあり、今後も官民の関係団体各位と連携して、自転車交通安全教育を推進して参ります。

＊【公式HP】https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/jitensha-kyogikai/index.html

12. 自転車ＡＤＲ事業　　注）ADR…裁判外の法的紛争解決手続きの総称

自転車関係団体の協力の下、法務省の認証を得た自転車 ADR センターにおいて、自転車が関係する交通事故を専門に扱う ADR の業務を、年間を通して行いました。

本年度受付数５件、調停回数 16 回、和解成立数５件。

また、自転車ＡＤＲセンター会議を開催しました。

①令和７年度第１回自転車ＡＤＲセンター会議

開催日時：令和７年６月３日(火)　午後２時～

議　　題：ア.令和６年度自転車ＡＤＲセンター実施報告について

イ.令和６年度自転車ＡＤＲセンター収支決算について

ウ.自転車ＡＤＲセンター事業状況報告について

エ.その他

②令和７年度第２回自転車ＡＤＲセンター会議

開催日時：令和７年９月３日(木)　午後２時～

議　　題：ア.自転車ＡＤＲセンター事業状況報告について

イ．その他

③令和７年度第３回自転車ＡＤＲセンター会議
開催日時：令和７年 12 月３日(水)　午後２時～
議　　題：ア.自転車ＡＤＲセンター事業状況報告について
イ.その他
④令和７年度第４回自転車ＡＤＲセンター会議
開催日時：令和８年３月３日(火)　午後２時～
議　　題：ア.令和８年度事業計画について
イ.令和８年度収支予算について
ウ.自転車ＡＤＲセンター事業状況報告について
エ.その他

＜その他＞

13. 自転車関連機器の普及等事業

自転車競技運営に欠かせない映像機器・投票業務用機器等の新機器導入のため、下表のとおり松山市と新規にリース契約を締結しました。

No.	リース先	契約日	リース物件・機器代金	リース期間
1	松山競輪場 (松山市)	ﾘｰｽ R7.11.25 工事 R7.11.25	97,900,000 円(税込)	5 年　R8.2～R13.1
合　　計			1 カ所 1 契約	

また、自転車競技の円滑な運営と高い競技レベルの維持に資するため、競技用自転車タイヤ及び関連する自転車アクセサリーについて、各競輪場からの注文を本会が取りまとめてメーカーに発注し、各競輪場を通じて、利用者に販売しました。

14. 財団運営等に関する事業

令和７年５月及び令和８年３月に通常理事会、令和７年６月に書面理事会、令和７年６月に定時評議員会、令和７年９月に臨時理事会を開催しました。また、評議員会終了後の令和７年６月 20 日、令和６年度公益目的支出計画実施報告書を内閣府公益認定等委員会に、電子申請により提出しました。

※理事会、評議員会等の詳細内容については、「Ⅳ. 庶務事項(P.20～)」を参照。

「自転車総合ビル（目黒)」関係では、引き続き、ビルのオーナーとして、管理運営・保守業務を行いました。また、「赤坂インターシティ AIR」関係では、引き続き、同ビルの管理運営・保守業務を赤坂インターシティマネジメント㈱に委託し、自転車総合ビルと併せて安定的な不動産賃貸収益を確保しました。

10 月に実施した組織改編については、事業推進課はイベント事業に、業務課は自転車文化センター運営等に特化し、総務企画課は経営企画機能を加え、専門性と機動力を高める体制を整えました。

＊以下の事業については、(公財) JKA の競輪公益振興補助事業として実施しました。
1. ツアー・オブ・ジャパン事業
2. 自転車月間推進事業
4. 自転車に関する展示事業
＊以下の事業については、(公財) JKA の競輪機械振興補助事業として実施しました。
11. 自転車交通安全教育調査研究事業

報告書等印刷物一覧(令和７年４月～令和８年３月作成分)

	印刷物	総部数
1.	ツアー・オブ・ジャパン 2025 ポスター(B2)	2,500
2.	ツアー・オブ・ジャパン 2025 チラシ(A4)	13,000
3.	ツアー・オブ・ジャパン 2025 ガイドブック(プログラム)	10,000
4.	ツアー・オブ・ジャパン 2025 テクニカルガイド	350
5.	ツアー・オブ・ジャパン 2025 報告書	2,200
6.	ツアー・オブ・ジャパン 2025 オフィシャルマニュアル	300
7.	自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ 2025」チラシ	5,000
8.	自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ 2025」報告書	300
9.	バイコロジー運動啓発チラシ(A4)・道路交通法一部改正 PR	7,000
10.	ハンドメイド展チラシ (A4)	2,000
11.	ハンドメイド展ポスター (A2)	60

Ⅳ. 庶務事項

1．会　議

（1）理事会

①第41回理事会　（令和7年度第1回）

ア．日時　令和7年5月29日(木) 14:00～

イ．場所　自転車総合ビル6階601会議室

ウ．決議事項

第1号議案　令和6年度事業報告の承認の件(決議)

第2号議案　令和6年度決算報告の承認の件(決議)

第3号議案　令和6年度公益目的支出計画実施報告の承認の件(決議)

第4号議案　定時評議員会の招集の決定についての承認の件(決議)

第5号議案　令和7年度競輪補助事業の実施に関する承認の件(決議)

第6号議案　職務の執行状況の報告(報告)

②第42回書面理事会　（令和7年度第2回）

ア．日にち　令和7年6月18日(水)

イ．決議事項

第1号議案　代表理事選定の件

第2号議案　専務理事（常勤）選定の件

第3号議案　常勤理事の報酬の件

③第43回臨時理事会　（令和7年度第3回）

ア．日時　令和7年9月24日(水) 14:00～

イ．場所　自転車総合ビル6階601会議室

ウ．決議事項

第1号議案　一般財団法人日本自転車普及協会組織再編に伴う規程の変更に関する承認の件(決議)

第2号議案　事務局次長の選任に関する承認の件(決議)

第3号議案　令和8年度（2026年度）競輪補助事業の要望の件(報告)

④第44回理事会　（令和7年度第4回）

ア．日時　令和8年3月24日(火) 14:00～

イ．場所　自転車総合ビル6階601会議室

ウ．決議事項

第1号議案　令和8年度事業計画の承認の件(決議)

第2号議案　令和8年度収支予算の承認の件(決議)

第3号議案　職務の執行状況の報告(報告)

（2）評議員会

①第14回（令和7年度）定時評議員会

ア．日時　令和7年6月17日(火)　14:00～

イ．場所　自転車総合ビル6階601会議室

ウ．決議事項

第１号議案　令和６年度(一財)日本自転車普及協会事業報告の件(報告)
第２号議案　令和６年度(一財)日本自転車普及協会決算報告の承認の件(決議)
第３号議案　令和６年度公益目的支出計画実施報告の件(報告)
第４号議案　評議員の選任に関する承認の件(決議)
第５号議案　理事の選任に関する承認の件(決議)
第６号議案　令和７年度(一財)日本自転車普及協会事業計画及び収支予算の件(報告)

２．監　査

（１）監事監査

令和７年 ５月 19 日(月)　令和６年度決算監査
令和７年 10 月 28 日(火)　令和６年度上期業務監査

（２）監査法人(清泉監査法人)による財務監査

令和７年 ５月 15 日(木)～16 日(金)　令和６年度期末監査
令和７年 12 月 15 日(月)～16 日(火)　令和７年度期中監査

３．赤坂インターシティ AIR

（１）赤坂インターシティ AIR 共有者集会

ア．日時　令和７年６月 20 日(金) 18：30～
イ．場所　赤坂インターシティコンファレンス 401 会議室
ウ．議題

第１号議案　第９期 (2025 年度) 赤坂インターシティ AIR 管理組合通常全体総会における議決権行使について
報告事項１　2024 年度管理運営実績報告について
報告事項２　2025 年度管理運営計画について
報告事項３　赤坂一丁目地区市街地再開発組合から承継した事業費の実績報告
報告事項４　修繕積立金残高報告
報告事項５　近隣地域との歩行者デッキ接続について

４．組織構成

（１）役員

役員(会長〈非常勤〉、専務理事、業務執行理事)	３名
非常勤理事	３名
非常勤監事	２名

（２）評議員　６名

（３）職員等

職員(男性８名、女性 ７名)	15 名
嘱託	３名
傭員	４名

別　紙

役員名簿

役　職	氏　名	役　職	氏　名
会　　長	小泉　昭男	監　　事	山本　哲郎
専務理事	田中　栄作	監　　事	設楽　　忠
業務執行理事	栗村　　修		
理　　事	伊藤　政博		
理　　事	越後谷　修		
理　　事	大柳　博明		

評議員名簿

（五十音順）

氏　名	所　属
入谷　　誠	一般財団法人全日本交通安全協会　専務理事
小澤　　豊	元 東京都自転車商協同組合　理事長
小田原　一記	公益財団法人日本レクリエーション協会　専務理事
幸田　　徳之	一般財団法人日本交通安全教育普及協会　専務理事
土屋　　真人	一般財団法人日本サイクルスポーツセンター　会長
丸山　麻里子	消費生活アドバイザー

事 業 報 告 の 附 属 明 細 書

令和７年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第３４条第３項に規定する附属明細書の「事業報告書の内容を補足する重要な事項」はありません。

一般財団法人　日本自転車普及協会
会　長　　小　泉　昭　男